



発行：近畿長野県人会 会長 高坂昌利

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-800

大阪駅前第1ビル8F 長野県大阪事務所内

TEL 06-6341-8191 (代) E-mail:kinkinagano@gmail.com

編集：近畿長野県人会 広報部会

印刷：アサイメディックス(株) TEL 06-6968-5522

平成27年定期総会および新年懇親会を開催!

—会場で長野県災害募金・被災地の物品販売に協力—

平成27年定期総会および新年懇親会が、2月1日(日)大阪市北区のホテルグランヴィア大阪20階「名庭の間」で開催され、来賓、会員合わせて142名が参加、16テーブルに分かれて会場はびっしりと埋めつくされた。

懇親会は来賓を迎え盛大に開催!

清水嘉江子

新年懇親会は12時から小林道明親睦部会長の司会のもとに開会。高坂会長が「今日はご来賓も含め142名がご参加いただいた。料理は各テーブルに運ぶのでゆっくりとお召し上がりください。先ほど財政が厳しいと申し上げましたが、今回は、長野県大阪事務所、法人会員、役員の方々からお土産、飲み物、景品など多数のご寄付、ご寄贈をいただき厚く御礼申し上げます」と挨拶、続いて遠路ご出席いただいたご来賓の方々を紹介した。



東信の皆さん

長野県観光部長・野池明登氏が祝辞



来賓を代表して野池部長は「去年は御嶽山の噴火と神城断層地震など災害が多かったが、スキー場が再開、賑わいを見せるなど回復しつつある。県人会の皆様のご支援が心強い。

観光では、善光寺の御開帳があり、北陸新幹線が開業される」など紹介され、阿部守一長野県知事からの祝辞を代読された。

(知事祝辞：P.5掲載)

祝宴は北澤健司常任理事の司会で幕を開けた。乾杯の発声は京都長野県人会の有賀一夫会長が「皆さんを含めてすべての人々が幸せで健康であることを願って乾杯!」と音頭をとられた。続いて太田豊和副会長が、各方面から提供されたお土産や飲物、景品などを紹介。



北信の皆さん

スピーチは長野県大阪事務所松澤繁明所長が、長野県の近況や観光案内の後、長野県の災害地元の物産販売への協力をお願いされた。北野建設(株)執行役員寺島寛典大阪支店長は「大阪に赴任したばかりです。大阪をもっとよく知りたい」と挨拶された。

また、南信地区担当の龍口篤夫副会長が秋に開催する「ふるさと信州訪問旅行」の概要を説明され、参加を呼び掛けた。(P.6に予告案内)

地区別に分かれた16席の卓上には、酒肴・造り・温物・焼物・強肴・添え物・寿司盛り合わせなどが盛られ、会員が信州の銘酒・焼酎・ワインなどを注しつ注されつして、和気藹々とした雰囲気を醸しだしていた。

カラオケで楽しむ一自慢の歌唱を披露

壇上ではカラオケの準備が整い、中井良策常任理事のもとにカラオケタイムがスタート。司会進行は小倉尚子副会長・小倉智子理事の姉妹が担当。トップバッターは小林一三氏(諏訪市)の「越中おわら節」、まもなく88歳とは思えない若々しい声で見事に歌われた。続いて上田光保氏(松本市)が「雨の梓川」、高橋務氏(長野市)が「恋の街札幌」、原久己男氏(阿智村)が「ひとひらの雪」、龍口篤夫氏(飯田市)が「おまえに」、和田慎六氏(上田市)が「おんな川」、山田孝久氏(京都長野県人会監事)が中井常任理事と「白いブランコ」、瀬野尾有司氏(在広島信州県人会事務局長)が「ふるさと

は今もかわらず」、ラストは菊原恭人氏(南佐久郡)が「千曲川」を熱唱され、素人とは思えない歌いぶりに、会場は割れんばかりの拍手で湧いた。

お楽しみ抽選会で盛り上がる

次は参加者に人気の「お楽しみ抽選会」。一番目は毎年恒例のサンリット産業の「阪神タイガースブレザー」、当会の小池俊二顧問から幸運を射止めた立岩直一氏(長野市)に贈られた。続いて伊那食品工業の伊藤哲成支社長から「野沢菜詰合せセット」が20名に、旭松食品の木下博隆社長から「商品詰合せセット」が15名に、信州ハムの白倉常夫関西営業所所長から「ハム詰合せセット」が15名に、小林道明副会長から「商品券5,000円」1名、「3,000円」が10名に、太田宏氏(読売新聞大阪本社最高顧問)から「正倉院展の記念カード」などが10名に手渡された。JTB京阪トラベル(小倉副会長)から古酒など、島田宗人理事から「真澄」が提供された。

最後は恒例の県歌「信濃の国」の斉唱。全員起立し有志の方は壇上に上がり、出席者全員で一番から六番までを力強く歌い上げた。県歌「信濃の国」は信州人の誇りを再認識させてくれる歌である。今回は万歳に代わり植松高志理事(富士見町)が「エール」で音頭を、太田博副会長(大町市)の閉会の辞でお開きとなった。

参加者はお土産を手に再会を期し三々五々帰途についた。(松本市出身)



「千曲川」を熱唱



宴の締めは県歌「信濃の国」

平成27年定期総会(報告)

新年懇親会の前、午前11時から大平文人副会長・総務部会長の司会のもとに定期総会が開会。まず昨年亡くなられた会員4名のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

次いで高坂昌利会長が挨拶で、「昨年、長野県は土石流、噴火、地震など大きな災害に見舞われた。会場入口で地震災害募金と被災地の産品販売を行っており、会員の皆様のご協力、ご支援をお願いしたい」と呼びかけた。その後、会則に則って会長が議長席について議事を進めた。

平成26年事業報告は、掛川俊一副会長・事務局長が報告。10月23日に実施したコウノトリの郷公園などを訪問した「日帰りバスツアー」は史上初の54人が参加(P.10に詳細掲載)、ハイキング、カラオケなど同好会活動が定着してきたこと、春・夏の高校野球、冬の高校ラグビー大会など県代表の応援、インターネットの活用など報告された。

平成26年収支決算は、太田豊和副会長・財務部会長が報告、田川善弘監事からの監査報告があり、両議案が承認された。

役員選任については、高坂会長が「上島武監事、久保村彰理事の2氏が辞任されたのに伴い、監事に鈴木強平常任理事、常任理事に北澤



提案説明する高坂会長

正俊理事2氏の役割変更と別府哲夫さんと佐野泰子さんの2氏を新理事に選任したい」と提案し、承認された。

平成27年事業計画(案)は、掛川事務局長が事業として「新年懇親会」と「秋の南信州への一泊旅行」をはじめ、同好会の活動、高校野球・高校ラグビーほか県代表チームの応援などを実施するが、財政的に厳しい状況にあるので、退会者を上回る新会員の獲得にご協力をお願いしたいと説明。

平成27年収入支出予算(案)は、太田財務部会長が「6年前に年会費を2千円に値下げして以降、繰越金が年々減少してきている。事業活動補助など絞り込んだ予算にするとともに、効率の良い運営を心がけていく」と説明。

27年事業計画案と収入支出予算案はともに承認され、新入会員の紹介後、定期総会は終了した。



中信・東信の皆さん



初参加の近大マグロ・熊井先生と土屋顧問・太田顧問

新年懇親会の感想(敬称略)

北信地区 立岩 直一(長野市)

新年早々にある総会・新年会は毎年出席しております。食事会・福袋の抽選・県歌「信濃の国」を六番まで全員で歌うことを悦びにしております。今回福引のトップ「阪神タイガースのプレザー」が当たり、皆様には誠に申し訳ないと思っております。大変なものを引き当てて今年は良い事がありそうです。

毎年皆様にお会いして元気で居る姿を観て・語り・聴く一事が人生の励みになります。毎年楽しい企画を考え、ますます発展する事を望みます。楽しい一日でした。



東信地区 和田 慎六(上田市塩田)

寒い中参加されました皆さんご苦労様でした。高坂会長はじめ県の代表また名古屋地区、各関西の県人会代表の方々出席して盛大でした。とにかく参加すること大事です。私自身も高校駅伝、花園ラグビー今年は都道府県女子駅伝など応援に参加して親睦はかれたと感じます。故郷の災害大変な一年でした。立ち直りつつある現状お聞きして安心と共に、早い復活祈りましょう。会長はじめ世話人方々の努力で進化しております。益々期待しております。カラオケもよかったね。抽選会で信州ハム詰め合わせセット当たりました。今年初めてです、サンキュウ。皆さん今年も親睦高めるためにも、スポーツ郷土の応援、イベント等に参加いたしましょう、本当にご苦労様でした。

中信地区 上田 光保(松本市)

四季に恵まれた信州、県歌「信濃の国」の名所旧跡は全て観光しましたので斉唱すると感動します。帰省は今まで車か中央線を利用してましたが、3月14日より北陸新幹線が開通します。日本海回りで信州へ、途中観光地を楽しみながら旅行ができて便利になるので期待しております。

総会・新年会は毎年盛況で役員の皆様のお陰です。懇親会は東、北、中、南信共に皆さん話題が豊富で親睦が深まり有難うございました。県人会新会員の紹介につとめます。

南信地区 原 久己男(阿智村)

27年度新年懇親会に出席者140人と大変多く故郷にいたころの思い出や現在の生活等の話しで盛り上がり大変楽しい時を過ごさせて頂きました。

また野沢菜漬販売やおみやげには市田柿等多数いただき有難うございました。

今後も県人会を盛り上げていく為にももう少し若い人も入会していただき長く続くよう出来たらよいかと思えます。また近隣5府県の出席の方にも近況を述べていただいたらどうかと思えます。これからも催したくさん有りますので参加させて頂きたいと思えます。

最後に長野県大阪事務所はじめ懇親会幹事の皆さんのご苦労に感謝いたします。



南信の皆さん

阿部守一長野県知事祝辞 (要旨)

本日、近畿長野県人会・新年懇親会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

高坂会長はじめ、本日お集まりの近畿長野県人会の皆様には、日頃から「ふるさと信州」への一方ならぬご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、昨年、災害に見舞われた一年でした。立春過ぎの県内を記録的な大雪が襲い、夏の南木曾町で発生した土石流被害と秋晴れの行楽客を襲った御嶽山の噴火では多くの尊い命が失われました。さらに初冬の「神城断層地震」では多くの方々が負傷したことに加え、住宅やインフラに甚大な被害をもたらしました。

県では各地域の復興を全力で支援すると同時に、こうした災害を教訓に今後の防災と万全の安全対策に取り組んでいく所存です。

このような中、今年、3月14日に北陸新幹線(長野経由)の金沢延伸、4月5日から善光寺御開帳などの大きな行事がありますし、来年1月からは、とりわけ関西とは縁が深い信州の戦国武将

真田幸村を取り上げたNHK大河ドラマ「真田丸」の放映も始まります。

観光県・長野としましては、これらの行事を契機に、多くの皆様をお迎えできるよう、心のこもったおもてなしを県民の皆様と進めていくとともに、信州へお越しの皆様にご感動を与え、「また信州を訪れたい!」と心から感じてもらえるよう努めてまいります。

県人会の皆様におかれましても、長野県のPRに格段のお力添えをいただきますとともに、ご家族やご友人をお誘いの上、ふるさと信州を訪れていただければ幸いです。

県政運営の基本として策定した総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン」に基づく施策のほか、喫緊の課題である「人口減少社会への対応」に関わる施策を重点的に推進し、安心して働ける長野県、希望する結婚や子育てができる長野県、人を惹き付ける魅力ある長野県を目指し、「共感」と「対話」を大切にしながら県政を進めてまいります。

本年が皆様にとって実りのある飛躍の年となりますよう、また、近畿長野県人会が益々ご発展されますことを心からお祈り申し上げます。

ふるさと信州災害支援の報告

会場で「神城断層地震災害」への募金と地震・噴火・豪雨で被災した地元物産品を販売、会員の皆さまにご支援をお願いしました。

①募金は総額5万円(高橋務氏1万円、安藤隆雄氏が会場で自著本売上金1万2千円、他)となり、長野県神城断層地震災害

対策本部へ義捐金としてお送りしました。

2月10日付で対策本部長の阿部守一知事から礼状が届きました。

②被災地の物産品販売は、長野県大阪事務所が担当(会員が補佐)、「野沢菜漬」、「エリンギ粕漬け」「豚カレー」、「なぎそねこ」等々が並べられ、野沢菜はすぐ売り切れました。

会員の皆さまのご協力・ご支援に厚く御礼申し上げます。

近畿長野県人会 会長 高坂昌利



お土産・景品等提供者 (敬称略)

[お土産] -参加者全員に-

▽龍口篤夫：市田柿セット

▽伊那食品工業：かんでんクック、プチ寒天麺

▽旭松食品：粉豆腐

▽信州ハム：安曇野わさび入サラミソーセージ

▽JTB京阪トラベル交通：ボールペン

▽長野県大阪事務所：観光案内パンフレット他

[宴会場持込酒類]

▽田川善弘：菊芋焼酎「華酎者」16本

▽小林道明：清酒「白鹿」3本

▽中井良策：清酒「井筒長」「千曲錦」計3本

▽伊那食品工業：今錦「中川村のたま子」4本

▽長野県大阪事務所：ワイン

「原産地呼称管理制度認定品」10本

[お楽しみ抽選会景品]

▽サンリット産業：阪神タイガースプレザー

▽読売新聞大阪本社：読売ジャイアンツグッズ(5)、正倉院展記念カード(5)

▽小林道明：商品券(5千円・1; 3千円・10)

▽島田宗人：清酒「真澄」

▽JTB京阪トラベル：10年古酒「古都首里」、芋焼酎「阿蘇の魂」

▽近畿長野県人会：伊那食品工業・野沢菜(20)、旭松食品・商品(15)、信州ハム・商品(15)

[賛助金]

▽小倉尚子・智子：カラオケ機器レンタル料

▽太田博：商品券・1万円(景品購入に充当)

▽高坂昌利：1万円(景品購入に充当)

心から御礼申し上げます

新年懇親会開催に際し、法人会員および個人会員多数の方々から上記ご寄贈・ご寄付を頂き、誠に有難く、心から御礼申し上げます。お陰様で楽しい会を催すことが出来ました。

近畿長野県人会 会長 高坂昌利

平成26年收入支出決算 (1月1日～12月31日)

(単位：円)

	予 算	実 績	増 減
収入の部			
会費収入	2,675,000	2,902,000	227,000
雑収入	71,000	53,845	△17,155
前年繰越金	634,223	634,223	0
収入合計	3,380,223	3,590,068	209,845
支出の部			
事務局費	410,000	422,837	12,837
会議費	1,320,000	1,488,048	168,048
事業費	1,280,000	1,432,731	152,731
支出合計	3,010,000	3,343,616	333,616
次年度繰越	370,223	246,452	△123,771

運営基金 26年末現在高 2,500,000円

平成27年收入支出予算 (1月1日～12月31日)

(単位：円)

	予 算	前年実績	増 減
収入の部			
会費収入	3,430,000	2,902,000	528,000
雑収入	71,000	53,845	17,155
前年繰越金	246,452	634,223	△387,771
収入合計	3,747,452	3,590,068	157,384
支出の部			
事務局費	420,000	422,837	△2,837
会議費	1,280,000	1,488,048	△208,048
事業費	1,930,000	1,432,731	497,269
支出合計	3,630,000	3,343,616	286,384
差引収支	117,452	246,452	△129,000

運営基金 27年末現在高 2,500,000円 (見込み)

ふるさと訪問一泊旅行のご案内(予告)

今秋に開催します「ふるさと訪問一泊旅行」は、南信地区が担当、日程・宿泊先等が決まりました。観光先などの行程、参加費用等の詳細は後日ご案内いたします。

開催日：平成27年11月5日(木)～6日(金)

宿泊先：飯田城温泉「天空の城 三宜亭本館」

飯田長姫城址の山伏丸に建つ、

眺望・味覚・天然温泉が自慢の旅館

募集定員：45名(予定)

問合せ先：県人会事務局(月・木)

副会長・南信地区担当 龍口篤夫

副会長・親睦部会長 小林道明

長野県大阪観光情報センターだより

～現世と来世を結ぶ旅～

長野県大阪事務所長 松澤 繁明

7年に一度の善光寺御開帳

今年は何年かで7年に1度の善光寺御開帳の年。4月5日から5月31日まで絶対秘仏である本尊の一光三尊阿弥陀如来の分身である



中日庭儀大法要

「前立本尊」が一般拝観できる盛儀が行われます。

期間中本堂正面には、前立本尊の右手中指から伸びる「善の綱」とつながれた御開帳のシンボル「回向柱」

が建ちます。その回向柱に触れるとその「善の綱」を通して前立本尊に直接接触れるのと同じ功德が得られるといわれています。

「あみだ池」から救い信濃国へ

この秘仏である本尊、実はその昔難波から信濃国の国司・本田善光によって運ばれた本



和光寺境内の「あみだ池」

尊といわれ、日本最古の仏像とされています。

欽明天皇13年(552年)百済(朝鮮)の聖明王から贈られた一光三尊阿弥陀如来像が仏教伝来とともに伝わりました。国内では崇仏・排仏論争が続く中、疫病が大流行し排仏派の物部氏により難波の堀江に棄てられてしまいます。

推古天皇8年(600年)上洛していた本田善光がそこを通りかかるとその阿弥陀如来が水中から出現したといわれています。



善光寺本尊の逸話が書かれている

この池は「あみだ池」(和光寺境内)といわれ現在に至っています。仏教伝来の聖地として信仰を集め、和光寺の建立(元禄11年1698年)以前から大坂(大阪)の名所の一つとなっていました。

元善光寺から善光寺へ

この阿弥陀如来を本田善光は池から救い、信濃国に戻り堂宇を建て(今の飯田市坐光寺⇒元善光寺)安置しましたが、善光に霊告があり、皇極天皇元年(624年)勅命により、現在の善光寺のある長野市元善町に遷座したと伝えられています。

遷座された本尊の代わりに勅命により木彫りの本尊が元善光寺に残され、「毎月半ば十

五日間は必ずこの故里(飯田)に帰ってきて衆生を化益せん」という仏勅(御告げ)が残されたことで、「善光寺と元善光寺と両方にお詣りしなければ片詣り」といわれています。

現世と来世を祈る旅へ

さて、片詣りというと、長野県内にはもう一つ善光寺を見つめている寺院があります。



北向観音(常楽寺)

それは、信州の鎌倉といわれる「別所温泉」(上田市)の中心にある「北向観音」です。昔から人々の信仰を集める「厄除観音」で、北を向いているのは善光寺に向き合っているからと

され、「裏善光寺」とも呼ばれています。

「極楽往生」が得られる善光寺詣りに対して、こちらは「現世の御利益」をもたらすといわれています。こちらも善光寺のみの参拝では「片詣り」になってしまうといわれています。参拝の順序としては「北向観音」が先といわれています。

善光寺御開帳の本年、善光寺如来が信州に運ばれた足跡をたどるも良し、別所温泉から北を目指して現世と来世を結ぶ旅を楽しむも良し、「善光寺」をテーマに信州・長野県へ出かけてみませんか？



昔の温泉町の雰囲気が漂う別所温泉

近隣長野県人会トピックス

[淡海長野県人会]

新年祝賀・懇親会を開催

1月24日(土)正午からクサツ・エストピアホテルで来賓・会員約30名が出席、新年祝賀・懇親会が開催された。



淡海長野県人会 新年祝賀会

小林計介会長が「今年は設立20周年に当たるので、記念イベントを計画中」と挨拶、乾杯の後「ユカand friends」4人によるジャズライブを楽しんだ。(高坂会長出席)

[京都長野県人会]

新年祝賀会・全国女子駅伝大会慰労会を開催

1月11日(日)午後6時から京都東急ホテル2階雅の間で来賓・会員57名および選手団26名が出席、新年祝賀会・女子駅伝大会慰労会が開催された。

当日は朝から西京極競技場に集まり県人会旗を掲げたスタンドで応援、チーム長野はオール学生の若いチームで入賞を目指したが16位に終わった。(詳細はP14に掲載)

(高坂会長出席)

[名古屋長野県人会]

新春懇親パーティ開催

2月7日(土)11時30分から名古屋栄東急イン2階オークルームで来賓、会員、特別参加者約170名が出席して開催された。

「鏡開き」の後乾杯、余興として津軽三味線の演奏(山口晃司と三絃会の皆様)などがあり、盛大な新春懇親パーティであった。

(龍口篤夫副会長出席)

[在広島信州県人会]

全国男子駅伝大会チーム長野激励会を開催

1月18日(日)午後6時から広島市文化交流会館3階「銀河」で来賓・会員52名および選手団24名が出席、男子駅伝大会チーム長野激励会が開催された。

当日は、信州県人会として屋台に出店、野菜やおやきなど販売、応援団は12時30分に平和祈念公園前をスタートした選手を応援するなど多忙を極めた。チーム長野は健闘したが19位に終わったので激励会となった。

はじめに選手団を迎え、出席者全員で記念写真を撮影後、深澤会長の挨拶、高見澤監督の報告、激励のスピーチなどがあつた。

(高坂会長出席)



[同好会の活動報告]

[ゴルフ同好会]みすず会

◇秋季ゴルフコンペを開催—泉南CC

10月7日(火)12名が参加して開催。今回はみすず会池田会長のご紹介で歴史ある泉南カンツリークラブでラウンドした。結果は佐野泰子さんが初優勝を飾った。

[成績] (敬称略)

優勝 佐野泰子 G 98 N 72.8

2位 若林正伸 G 101 N 73.4

3位 池田和正 G 101 N 74.6

次回、春季大会は4月7日(火)泉南カンツリークラブで開催します。

[ハイキング同好会]

◇第5回 H26.9.16(火)

武庫川溪谷と廃線トンネルウォーク!

- ・参加者 11名(男子8名、女子3名)
- ・木之元神社~武庫川溪谷~廃線トンネル6ヶ所

◇第6回 H26.12.2(火)

灘の酒蔵めぐり

- ・参加者 11名(男子5名、女子6名)
- ・浜福鶴~菊正宗~白鶴~神戸酒心館~沢の鶴

[カラオケ同好会]

◇第5回 H26.11.17(月)

- ・歌謡錬場 リズムトーン(天神橋3丁目)
- ・参加者16名(男子10名、女子6名)



秋の日帰りバス旅行 出石城下とコウノトリの郷公園を訪問

昨年10月23日(木)、信州にゆかりのある「出石城下散策と兵庫県コウノトリの郷公園の見学」バス旅行を開催、54名(別に車で2名)が参加した。

今回は東信地区(掛川俊一副会長地区担当)が企画、出石城は信州上田の仙石氏が移り、明治まで治めた。コウノトリの郷公園山岸哲園長は長野県出身でご縁があり、当会「50周年」で記念講演をしていただいた。今回、県人会のために別室で「コウノトリの野生復帰の科学的な取組」などについてお話しいただいた。

[行程] 大阪～JR和田山駅～出石城下：昼食「そば藤」で特選料理、散策～コウノトリの郷公園：講義、記念撮影、園内見学～道の駅「ようか但馬蔵」～JR和田山駅～大阪

日帰りバスツアー

馬田 延枝

色づき始めた但馬路バスツアーに妹と参加させていただきました。

ツアーの当日の神戸新聞に故郷の長野・上田にコウノトリが飛来したという記事が載り、その記事が出発間もないバスの中で披露され幸先のよい旅の予感がしました。



バスは姫路からご参加の席を空けてほぼ満席、五十余名もの参加は始まって以来とか。和田山駅から数名の方が乗車されるとバスは一路出石へ。出石そばは、出石城主松平氏と上田城主仙石氏の国替えにより信州そば職人の技術が出石にもたらされた由、これまた国の誇りなりと拝聴致しました。出石そば屋で賑やかな昼食の後、城下町を駆け足散策。

最終目的地のコウノトリの郷に近づくと田んぼの中にお尻の黒い鳥を見つけました。まさかと思いきや、どなたかが「コウノトリ」と教えて下さいました。さらにバスが公園に近づくとそこかしこに大きなコウノトリを見つけました。コウノトリの郷公園ではかつて新年懇親会でご講演くださった山岸園長がお出まし下さり、園長のお取り計らいにより学術員の方のコウノトリの保護、増殖、野生復帰の



参加者が多くて記念写真も2枚になりました

お話しを伺いました。公園の奥には餌場があり、丁度餌の時間で餌を運んだ軽トラックが到着すると車の方へ鳥たちが迎えにいく愛らしい姿に接し目の前で餌をついばみ、大きく羽ばたく鳥たちの勇姿に見入りました。

帰りのバスの中はすっかり打ち解けた会員の美声を聴かせていただきました。久しぶりの「信濃の国」はボリューム一杯で、幸せの長い一日でした。

帰宅後「和歌山県にもコウノトリ飛来」のニュースにふれ、公園および但馬



山岸園長(右)

の方々の取り組みが実を結びつつあることを身近に感じました。早く日本中がコウノトリの住める環境になれと願った次第です。有意義な企画から旅のお世話をして下さった係の皆様にご心より御礼申し上げます。

(佐久市出身)



中央が馬田さん

信州人気質

藤保 君子

「新年総会は今までで一番よかった。千曲川上流出身、というだけで初めて会ったと思えないほどすぐ打ち解けて話が弾んで楽しかった！」竜野駅から参加された方から電話をいただいた。

私は「関西北信濃会」の大先輩諸氏から、ふるさととはこうやって愛し、ご恩を返すんだよ、と教えられた。

今は亡きK氏が生前におもしろい文章のコピーを下された。それは岩中祥史著「出身県でわかる人の性格」の長野県人の一部分である。

『信州人はいても長野県人は存在しない。国立大学も長野大学ではなく信州大学である。四角四面でまじめ一本やり。ユーモアを解する余裕に乏しく喜劇役者は生まれぬ。信州人は理屈っぽくて議論好き、理屈で負けたく

ないからよく勉強し本もよく読む。この理屈っぽさは男女を問わない。また長野県の飲み屋は全国でいちばんつまらないともいわれる。県庁所在地・長野市最大の飲食街、権堂界隈のバーやクラブのママの多くは新潟県出身者だという。信州の女性は客にシナを作ったりすることはできないのかもしれない。1900年につくられた「信濃の国」という歌だけは会合などでかなり酔っていても、まじめな顔をして歌う。流行歌でもないのにこれほど人口に膾炙した歌もめずらしい』とある。

ある知人は、私の顔を見るたびに、「年下のお姉さま」と言う。彼はほめてくれるつもりらしいが、岩中祥史氏と同じく、北信州の女性の典型に見えるのだろうと自認している。

信州女性としてこの性格を逆手にとって、秋の南信州バス旅行に友人を多く誘い、長野県にお金を落としてもらい、ふるさとへのご恩返しに大いに発揮したいと思っている。(中野市出身)

村上水軍ゆかりの地を訪ねて

吉池 南翔

全国の本屋の店員の投票により選ばれる“本屋大賞”と言う賞がある。私が初めて本屋大賞に興味を持ったのは第10回の百田尚樹作「海賊と呼ばれた男」(出光佐三をモデル)である。2014年度第11回は和田竜作「村上海賊の娘」で、共に“海賊”がタイトルに含まれていた事もあり、興味を持って一気に読み上げた。

内容は信長と毛利との戦い、大坂本願寺派との戦いにおいて、反信長勢力として、瀬戸内を舞台に活躍した村上水軍を、能島村上の娘・景の活躍を中心に描いた物語で、小型船(小早)、中型船(関)、大型船(安宅)を駆使して弓矢、鉄砲、刀を使っの白兵戦の状況が生々しく記述されていて、同じ様な場面が繰り返されている状況描写にも飽きず、引き込まれた。これを機会に村上水軍について調べてみる事にした。

南北朝時代、南朝方の98代長慶天皇の命により信濃の国から村上師清が瀬戸内に入った。師清には3人の男子があり、夫々三つの島に分立させた。長男を能島、次男を来島、三男を因島に配置した。これらが村上三家の起源となった。大変驚いたのは村上水軍の先祖が信濃の国から来た事だ。

丁度しまなみ海道を行くバスツアーがあり、家内共々参加した。しまなみ海道は今治、尾道を結ぶ59.4kmあり、本州四国連絡橋3ルートの一つだ。今治から直近の島、大島で高速船に乗り、日本3大渦潮の来島海峡の激しい渦潮を見て感動し、村上水軍の一つ来島を船上から眺め、石の階段が海に突き刺さっていて当時の要塞の様子が偲ばれた。次に大島大橋を渡って伯方島に渡る途中、右下方に目をやると周囲が720mしかない無人の小島、能島

をチラット見ることが出来た。こんな小さな島が村上水軍の総纏め・村上元吉の拠点で、その娘・景が本屋大賞「村上海賊の娘」として描かれている事にチョット違和感を覚えた。

伯方島を経て大三島に入ると日本の総鎮守大山祇神社がある。樹齢2600年にもなる檜や杉があり神代からの歴史を伝えている。祭神のオオヤマツミノカミはイザナギ イザナミの子で、ワタツミノオオカミの兄弟神である。ここで村上元吉は戦勝の祈願をすると共に、連歌の会を開いて時の到来を待っていたといわれている。また各時代の武将(近くでは山本五十六元帥)は必勝祈願に参拝に来たという。小説の景もこの神社の宮司の娘・鶴姫と親交があった様だ。

大三島を出て多々羅大橋を渡ると生口島だ。生口橋を過ぎるともう因島だ。因島には因島水軍城(昭和58年再建)があり、資料館では、歴史的説明、武具、甲冑などの展示があり、往時の活躍を偲ぶ事が出来る。



しまなみ海道沿いには多くの村上水軍ゆかりの場所があり、それらが信長、秀吉の歴史上表の活動に対して、あまり目立たない一海賊程度の認識であったが、実質的な歴史を動かしていた事を強く感じた次第である。繰り返しになるが、信濃の国の村上師清が村上水軍のご先祖様だと云う事は新たな驚きだった。

(東御市出身)

全国高校駅伝大会応援記

中井 良策

12月21日(日)、全国高校駅伝大会の京都は薄日が射す駅伝日和でした。平野神社では『ふるさと応援餅つき大会』が開催され、舞子さんも飛び入りして30臼ものお餅が搗きあがり、一般の応援客に振舞われ行列ができました。また、チラホラ咲きの寒桜の下では、時ならぬ宴が始まりました。



女子の長野東は1区で23位(トップとは52秒差)と出遅れたが、2区玉城かな選手・3区清水彩音選手が夫々6人抜きの激走、4区塩崎葵選手が区間5位、5区久保田里菜選手が区間8位の走りを見せたが、8秒及ばず9位と入賞を逃した。

男子は佐久長聖と北信越代表の東海大三高の2校が出場。佐久長聖は1区・關颯人選手が8秒差の3位と好発進した。一時は6位に後退するが、後続が区間5位・3位・2位の走りで、宮島幸太郎選手が2位まで順位を

上げ、澤弘平選手に繋いだ。最終区では終始埼玉栄と競り合い、競技場に入って残り300mでスパートして2位でゴールした。2011年に高見澤勝監督に替り3年目の昨年は5位、今年はさらに順位を上げた。

17年ぶり5回目の出場を果たした東海大三高は、北信越大会の記録(2時間11分25秒)を2分近く短縮する健闘で、58チーム中37位の成績だった。(佐久穂町出身)

全国高校駅伝選手を激励

小林 道明

12月19日、代表校3校の宿舎に京都長野県人会有賀会長他4役員と近畿長野県人会小林親睦部会長他1名が訪問した。

さわや本店では、玉城(長野東)・高見澤(佐久長聖)両監督に、両県人会から金一封を贈り激励した。玉城監督から「生徒達は1年間チーム創りをしてきた。創立40周年を機に入賞を目標に全力を出し切ってくれる事を期待します」と、高見澤監督から「昨年は5位入賞したが、新チームは秋から上り調子になり入賞は不可能な目標ではない」との決意表明された。

続いて東海大三高の宿舎KKRくに荘を訪ねた。北澤監督から「記念大会で生徒達と都大路への切符を手にしたチャンスを生かしたい」と、福澤主将から「都大路を全力で走り東海大三高の存在を知らしめたい」と決意表明された。(長野市出身)



女子2区6人抜きの玉城選手



男子1区中間点の關選手



男子6区平野神社前の宮島選手

都道府県対抗女子駅伝大会応援記

中井 良策

皇后杯第33回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会は平成27年1月11日(日)京都西京極競技場発着の9区間で開催された。薄日の射すスタンドで京都長野県人会を中心に県教育委員会・大阪事務所の面々、名古屋・広島・淡海・近畿の県人会の会員が集まり、12時30分のスタート時に声援を送った。

オール学生で入賞を目指した長野県チームは、1区の玉城選手(長野東)が17位で2区の細田選手(日体大)に繋いだ。3区のと田選手(川中島中)が区間5位、7区の佐々木選手(玉川大)が4人抜きの区間9位、8区の松澤選手(喬木中)が区間11位の走りをみせ前チームを追ったが、16位と入賞には届かなかった。



レース中は伊那ローメンをはじめ19道県のご当地グルメが勢揃いする「ふるさと屋台村」を巡り歩いて札幌ラーメン、鳥取のカニ汁と清酒諏訪泉、くまモンのカップ酒をいただきながら、特設テントのTVで途中経過を見守り長野県選手の追い上げに声援を送り、期待し、互いに沸きました。(佐久穂町出身)

京都長野県人会
新年祝賀会・女子駅伝慰労会を開催

中井 良策

新年祝賀会・駅伝慰労会は京都東急ホテルで大会当日の18時から催された。

有賀会長は挨拶で「天台宗総本山・延暦寺が、今年一年の心構えを示す漢字【盡真心】を示されました。今年白寿を迎える半田孝淳座主は元京都長野県人会の会員です。“優しさと温もりを感じる行動と態度、そして言葉で一日一日を過ごし世界の為に尽くす一年にしたい”と思われて選ばれたと伺っております。本日故郷よりお越しの先生方、都大路を駆け抜けて元気を与えてくれた選手の皆さん、近隣県人会来賓の皆さん、昨年色々協力していただいた会員の皆さん、ありがとう!…」と話された。

続いて伊藤長野県教育長・高坂近畿長野県人会長の来賓祝辞、伊藤団長(長野陸協副会長)の挨拶、玉城監督による選手団紹介、祝電披露に続き名古屋長野県人会の宮澤副会長の乾杯の発声で懇親会が始まった。

宴が進みカラオケタイムに入り、大会の緊張から解き放たれた選手たちは壇上で、歌い飛び跳ねて宴席を盛り上げた。

主将の箱山侑香選手(ワコール)は「3月8日の名古屋ウィメンズマラソン2015に挑戦して、更に、来年は戦力となって女子駅伝を走ります」と選手代表謝辞の中で決意表明をした。

(佐久穂町出身)



高校ラグビー応援記

岡谷工業 初戦突破できず

掛川 俊一

第94回全国高等学校ラグビーフットボール大会が、昨年末の12月27日(土)から大阪・近鉄花園ラグビー場で開催された。郷里の代表校は岡谷工業高校が3年連続出場し、大会2日目の28日(日)、長崎県代表校の強豪長崎北陽台高校と対戦した。

故郷岡谷からの応援団、在阪の同校OBに加え、長野県大阪事務所の宮澤次長、当会からも我々有志が応援にかけつけた。

試合は、開始早々長崎のスピードある果敢な攻めに先制のトライを許す。波に乗る相手の多彩な攻撃を、岡谷工は止め切れず、前半は無念な成績で折り返した。(0対28)

28点を追う後半、序盤攻めあぐねた岡谷工は巧みなモールを見せた。右中間から繋いだボールを皆で密集をつくり前へ進んで押し込み、初のトライを決めた。シード校に見られるような個の力は乏しいながら、全員が最後の最後まで試合を諦めず2トライを返した。力の限り戦い、初戦突破を目指すもかなわず。(12対59)

当日は、応援席中央には小池良彦校長先生以下生徒諸兄・選手のご家族と一緒にあって対戦校の応援に負けじと、大声で声援を送り全員が県旗を振って応援した。岡谷工チームは選手全員の気迫のこもった戦いであった。

当日の健闘を称え更なる飛躍を期待する。来年の活躍を祈りながら、私たちは花園会場を後にした。
(小諸市出身)



寒さに負けぬ応援団

新入会員紹介 平成26年9月以降分

(敬称略：氏名・出身地＝紹介者)

藤井 邦男(飯山市) = 藤保 君子
 赤西千恵子(姫路市) = 藤保 君子
 村松 陽子(長野市) = 逝去の父と交代
 半田 完子(長野市) = 逝去の父と交代
 隅田修一郎(上田市) = 石川 君子
 原田 二郎(信濃町) = 小林 昭夫
 熊井 英水(塩尻市) = 向山 英夫
 中澤 一雄(飯田市) = 事務局
 滝沢 正彦(上田市) = 太田 博
 百瀬 孝(長野市) = 千野 博敏

ご 逝 去 (敬称略)

西澤架娑男(上田市) 平成26年 4月20日
 小林 武(長野市) 平成26年10月 6日
 半田 功(千曲市) 平成26年11月 1日
 村松 豊(長野市) 平成27年 1月19日
 清水 文雄(長野市) 平成27年 2月 8日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

世話人会の開催

○平成26年12月16日(木)11時 15名
 (1)平成27年定時総会議案について
 (2)新年懇親会の開催について

役員会の開催

○平成27年 1月20日(木)10時30分 32名
 (1)平成27年定時総会議案について
 26年事業報告・収支決算、役員選任、
 27年事業計画案・予算案を説明・承認
 (2)新年会のプログラム、運営体制など
 祝宴および役割分担について説明

編集後記

今号は定期総会と新年懇親会の記事が中心ですが、楽しく盛り上がった懇親会の内容を一面から紹介しました。

今後も新会員の勧誘など、会の活動を盛り立てて頂くようお願いいたします。(安藤隆雄記)

さあ、信州へ

～工場や研究機関、IT企業など、“長野県”を活かした企業立地をしてみませんか～



だから信州

【長野県が選ばれる理由】



各主要都市から 200km 圏内

首都圏・中京圏へアクセスしやすく、輸送路、交通路ともに利便性が高く、効率的な企業運営を実現できます



自然に感謝

スキー、森林浴、温泉、澄んだ空気の中、癒しの時間を過ごすことができます



優秀な人材、揃ってます

長野県の伝統ある教育機関により、各世代に渡る優秀な人材が育成され、県内産業の原動力として活躍しています



気候が穏やかで地盤も安定

日照時間が長く、降水量が少ない明るくさわやかな環境です

長野県は**企業立地**を全力でサポートします



詳しい内容は、

長野県 立地ガイド

検索

問い合わせ先

長野県大阪事務所
TEL:06-6341-7006
E-mail:osakajimu@pref.nagano.lg.jp